

第5回大井町総合計画審議会
第3回大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 概要

日 時：平成27年11月9日（月）

午後1時30分～午後3時15分

場 所：大井町役場301会議室

出席者：清水豊司委員、鈴木武夫委員、橋本淑子委員、植松清治委員、武井孝市委員、柳川武夫委員、
中村義夫委員、山地裕昭委員、遠藤かえで委員、西山健一委員、熊澤博之会長、
飯田文人委員、山田行雄委員

欠席者：田村俊二委員、芦川智委員、君塚喜一委員、池田大介委員

事務局：川野治企画財政課長、宇田川晶彦企画財政課主幹、立川悟企画財政課主査、
田中元清（ランドブレイン株式会社）、大屋裕一（ランドブレイン株式会社）

1 開会

間宮町長から熊澤会長に第5次総合計画後期基本計画原案及び大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略原案の諮問及びあいさつ

2 議題

（1）パブリックコメント等の結果と町の考え方について

- ・事務局よりパブリックコメント等に対するご意見と町の考え方について説明。（資料1）

【意見・質疑】

- パブリックコメントに対する回答はどのようにするのか。
→ ご意見提出者に個別に回答するのではなく、ホームページで公表する。
- 3ページの意見番号12について、主体としての子ども側から見た教育のあり方について、これまでは、指導する形が強かった。教育のあり方の打ち出し方として、例えば、いじめの問題に対する考え方などを盛り込むべきではないか。子ども自身に考えさせることや子どもに答えを出させるような視点が重要だと思われる。子どもの意見表明権などについても記述することができないか。
→ 基本計画の性質上、町が具体的にどのような事業を実施していくかを記述するものであり、基本的な考え方を記述していくのは難しいと考える。
- 5ページの意見番号17について、職員数を削減すると行政サービスが縮小し、そのことで、人口減少へとつながるのか。人口ビジョンとは関係ないのではないか。
→ 効率的な行政運営を進めるために、これまでも職員数削減等を行政改革の一環としてやってきたことを記述した。しかしながら、人口減少を前提として行政サービスを縮小させてしまっている、といった意味で表現した。
- 職員を削減すると行政サービスが縮小して、人口減少に拍車をかけるという意味に受け取れる。職員数は削減しても、サービスは拡大するのがこれからの町政運営ではないのかと。
→ 表現については再度検討する。
- 6ページ意見番号23について、定住者だけではなく移住・定住者ではないのか。移住して定住し

てもらうのがセットで望ましいのでは。

→ 定住者の中には移住者も含めて書いているが、修正を検討する。

- 14ページの意見番号31について、安全・安心の住みよい町の第1は歩道の設置にある。カーブミラーの設置ではなく歩道が先ではないか。地域の要望により狭い歩道が2mになった場所もある。安全・安心の町として歩道の設置を考えてほしい。

→ 町の考え方としては歩道と車道の分離が1番の理想であるが、用地の問題もありグリーンベルトなどで対応している。当該意見については質問の内容がフットライトに対するものであったため、それに対する回答としている。

- 7ページ意見番号28について、他市町との連携でICカードの導入を要望しているのか。

→ 御殿場線沿線地域の市町村で構成される「御殿場線利活用推進協議会」で要望活動を行っている。神奈川県鉄道の推進協議会の御殿場線部会においても連携をして要望している。

- ICカード導入の実現にあたりネックとなるのは何なのか。

→ 利用者の減少と各鉄道会社とのシステム上の連携が困難だと聞いている。

- 今は、どこまでICカードが使用できるのか。

→ 御殿場まではICだが、御殿場 - 国府津間が未設置となっている。御殿場市も協議会として一緒に強く要望している。JR東日本とJR東海でシステム上クリアする、また維持管理するのに膨大な金額がかかる。

- これ以上なければ、いただいた意見について、事務局は反映を検討いただきたい。

(2) 大井町第5次総合計画後期基本計画原案について（諮問）

・事務局より「第5次総合計画後期基本計画原案」について説明。（資料2、資料3）

【意見・質疑】

- 24ページ（4）生涯スポーツについて、個人的には第4節の健康・福祉の健康づくりに入るのではないかと考える。

→ 前期基本計画策定の時も同様の意見があったが、健康づくりといった位置づけもあるが、一部、競技力の向上に関する視点もあるため、ここに位置付けられている。

- 成長戦略の③、④について、未病いやしの里センターのイメージと相和ブランドとの関係性はどのように考えるのか。

→ ブルックスが現在、未病いやしの里センターの基本計画策定に取り組んでいるところであり、具体的な内容は分かっていないが、未病の視点からは、スポーツ、健康、福祉といった事業のほか、緑地や自然環境を活かした癒しの空間づくり、また、未病産業から新しい産業を興すためのインキュベーション施設などが考えられる。さらに、食と農業など、いろいろと考えられ、相和には農業もあることから、未病産業を活用しながら広く相和地域をPRしていこうと考えている。未病いやしの里センターを起爆剤として一歩踏み込んだPRをしていきたいと考えている。

- 町の成長戦略の目玉でもあるので、③と④を2つに分けずに1つにしたい。

→ 相和ブランドは相和地域のみで考えているが、未病に関しては、平坦部も含め、町全体での取り組みとなることから、分けて整理している。

- 未病いやしの里センターは相和地域にあるので、相和ブランドに入るのか。

- 未病いやしの里センターは相和にあり、相和ブランドとリンクする部分はあるが、町全体のものとしてご理解いただきたい。
- 山の上は相和にあるので、今後、相和ブランドを考えていくためには、はっきりしたほうが良いのでは。これまで、相和地域において多くの計画を作ってきたが、今あるのは「おおいゆめの里」と「四季の里」だけ。相和ブランドの積極的な発信と言っても見えてこない。相和から素晴らしい教育をしていくであるとか、人口増をめざす方策等の具体的なことが見えてこない。観光客を年間 100 万人呼ぶであるとか、「四季の里」の売上 10 億円をめざすであるといったことで相和ブランドが出てくるのではないか。
- 未病いやしの里センターは県の事業として相和だけでなく県西地域、神奈川県、あるいは全国といった規模の中の事業として位置づけられており、その一部として相和地域との連携が考えられている。多くの観光客を呼ぶことや売り上げを増やしていくことは、いやしの里センターの活用次第で可能性が見えてくるところでもあり、いやしの里センターを相和地域の活性化につなげていきたいと考えている。
- 未病いやしの里センターは、全ての事業が始まるのは平成 32 年からではないのか。段階的なオープンはあるとしても、5 年間の期間で、どこまでが総合計画にリンクしていくのか。
- 県が運営する部分については、平成 28、29 年から事業を立ち上げることになる。その他の施設については、段階的にオープンし、平成 32 年度でも始まらない箇所も出てくるが、ある程度は 32 年度を目途としている。
- いやしの里センターは、まだ、概要が発表されたばかりである。町全体としてとらえた事業として考えていただきたい。相和ブランドについては地道に活動してきた経緯もあり、今後も、地域の方と町で一生懸命取り組んでいるということで项目的に 2 つ掲げているという理解でいかがか。
- 相和地域の人口を増やすという目的のために区画整理事業やほ場整備事業の計画もあったのに、一つもできていない。今後はこうした事業はもう取り組まないということか。
- するしないは一概に言えないが、未病いやしの里センターが契機として相和地域の活性化につながることを期待している。
- 前期基本計画の時より成長戦略が具体的になっている。課題がはっきりしてきたからと思うがどう考えているか。
- 項目にもよるが、前期基本計画の時は湘光中の大規模改修が見えていたからこそ記載できた部分であり、今回の成長戦略では大井中央土地区画整理事業のように詳細が見えてきたから記載できている。その時点で記載できる内容をできる限り詳細に記述するようにしている。
- 大井町は耕作放棄地が増加している。農業従事者が減り、専業農家も少なく、高齢者ばかりになっている。小規模でも良いので大型機械が入れるような農地にしていく必要がある。耕作放棄地を少なくするために他の人に頼もうとしても、農地が狭いので受け手が見つからない。1 反、2 反の区画でも大きくしていかないと耕作放棄地が増えてしまう。また、JA 等と相談して、ライスセンターを整備すれば、そこに集荷して効率的な農業ができる。そういった方向性を考えていく必要があるのではないか。農業の生産基盤整備が記載されているが現実には農道の新設改良が進んでいない。
- 農業生産基盤整備については営農者からの機運が高まって始まるものであり、現時点では、そうした話が具体的に動いていないのではないかと考えている。ライスセンターについても農協が整備主体となっていることが多く、現状ではそうした話がないのではないか。
- 町にも農政担当がいるのだから、JA や農業者と一緒にやって会議を開いて推進していくことも重要ではないか。土地改良についても地域からの声を待つのではなく、町が音頭を取っていくことも必要ではないか。

- 大井町は農振農用地の指定を筆ごとにしている。まとまっていれば土地改良もしやすいが現実には虫食い状態になっているため、土地利用としては難しい。農業を将来的に守っていくのであれば、そのエリアの地権者で農振農用地にしようと、決断していかなければならない。いずれにしても、生産基盤の整理に取り組んでいただきたい。
- 今の話を相和ブランドに入れていただき、耕作放棄地をどうするかといった話を含めて地域で協議していただき活性化につなげていっていただきたい。それができないと相和ブランドは進まない。

(3) 大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略原案について（諮問）

- ・事務局より総合戦略の原案について数値目標、K P I の設定等について説明。（資料4、資料5）

【意見・質疑】

- 5 ページの大井スイーツセクションとフェイジョアについては削除してほしい。目標として恥ずかしい。大井町でフェイジョアがどのくらい採れているのか。もし掲げるのであれば少なくとも300万円くらいの目標を掲げるべきではないか。町としてどうしていきたいのか方向性が感じられない。
→ 現状では始まったばかりで大きくはないが、今後、本格展開していきたいという意気込みで記載している。
- 113万円の売り上げを150万円とするのは意気込みが表れている数字ではない。フェイジョアのアイスクリームもまだできていない。アイスクリームができて町内で販売されるようになればよいが、フェイジョアのスイーツも期間限定でしか販売されていない。大井町の総合戦略に記載するだけの意気込みが必要ではないか。
→ 数値目標については、再度、庁内で検討する。
- 7 ページについて、区画整理事業自体が5年間はかかると思うが100人くらい増えるとした根拠は。
→ 現状ではこの5年間でどこまで進むかは確定できないが総合戦略として一步踏み込むといった意気込みにより盛り込んでいる。
- 目標値自体ができそうな数字ばかり挙げられている。それでは目標とは言えない。できることではなく、難しいと思えるくらいのものを目標値として設定するような考え方をしなければならないのでは。
→ 手が届きそうで届かない数字が良い目標であると考え。全体的にもう一度、検討します。
- 他になければ、次回に向けて一部、修正していただきたい。

(4) その他

- ・事務局において議事概要を作成し、委員の確認後、公表することを確認した。
- ・次回の会議については11月20日に開催し、答申する旨を確認した。

以 上